

令和元年度 第9回

中央市教育委員会

会 議 録

(要点筆記)

日時 令和元年 12 月 16 日 午後 4 時 30 分から

場所 一宮保健福祉センター 介護者教育室

第9回（定例）宍粟市教育委員会会議録

1 開会・閉会の年月日時及び場所

令和元年12月16日（月） 午後4時30分 ～ 午後5時23分

兵庫県宍粟市一宮町閨賀300

一宮保健福祉センター 介護者教育室

2 会議に出席した者の職氏名

教育委員

西岡章寿	教育長	金本一二	委員
片山繁樹	委員	中山由香里	委員
前田純恵	委員		

事務局

前田正人	教育部長	山本信介	教育部次長
田路正幸	教育部次長	中尾善弘	次長兼こども未来課長
西林文隆	次長兼施設整備課長	進藤美穂	教育総務課長
世良繁信	学校教育課長	柴原宏二	社会教育文化財課長
池本雅彦	学校給食センター所長	西田征博	人権推進課長
太田雅章	教育総務課副課長		

3 開会

西岡教育長が開会した。

4 会議の成立宣言

出席者数5名となり、西岡教育長が会議の成立を宣言した。

5 会議録署名委員の指名

署名委員は、西岡教育長の指名により、次のとおり決定された。

中山委員

6 前回会議録の承認

令和元年度第8回（定例）宍粟市教育委員会会議録の承認に関する件

前回の定例教育委員会における協議事項、報告事項の会議録について、進藤教育総務課長が説明し、承認された。

7 教育長報告

次の2点について西岡教育長が報告した。

(1) 幼保一元化推進状況について

12月3日に一宮南地区幼保一元化協議会を開催し、はりま一宮こども園の園章について、一宮南中学校の生徒から募集した園章のデザインの中から決定していただきました。応募総数は114点となっており、事務局で21点に絞り、その中から協議会で選定していただいています。

次に、山崎地区幼保一元化について、保護者を対象とした説明会を、12月19日に宍粟防災センターで午前10時からと午後7時からの2回開催する予定としています。山崎町全地区を対象としており、保護者以外でもどなたでも参加していただくことができます。

(2) 12月議会の報告について

12月議会に上程しました議案については、12月11日に採決があり、宍粟市一般会計12月補正予算、宍粟市認定こども園条例等の一部を改正する条例案、宍粟市生涯学習センター条例の一部を改正する条例案については、すべて可決されましたのでご報告させていただきます。

8 議事

第17号議案 宍粟市生涯学習センター学遊館に勤務する職員の勤務時間、休暇等に関する規程の一部改正について

宍粟市生涯学習センター学遊館に勤務する職員の勤務時間について、他の3生涯学習センターと異なる勤務体制となっており、業務調整等を行う中で、統一することが効果的であることを進藤教育総務課長が説明した。

審議の結果、全員「異議なし」とし、同意することが決定された。

委員の主な意見及び事務局の説明

意見なし

9 協議報告事項

(1) 令和2年度宍粟市立幼稚園・こども園（幼稚園部）の入園受付状況について

資料1「令和2年度宍粟市立幼稚園・こども園（幼稚園部）入園受付状況」等により、進藤教育総務課長が説明した。

(2) 宍粟市幼保一元化推進計画の改定について

資料2「宍粟市幼保一元化推進計画の改定について」により、中尾次長兼こども未来課長が説明した。

(3) 令和2年度版「宍粟の教育」編集方針について

資料3「令和2年度版『宍粟の教育』編集方針（案）」により、世良学校教育課長が説明した。

(4) 教職員の勤務時間実態調査結果報告書について

資料4「勤務時間実態調査結果報告書」により、世良学校教育課長が説明した。

(5) 学校給食における異物混入状況及び対策について

資料5「令和元年度学校給食センター異物混入状況及び対策について」により、池本学校給食センター所長が説明した。

(6) 若者フォーラムin宍粟について

資料6「第4回若者フォーラムin宍粟」により、西田人権推進課長が説明した。

委員の主な意見及び事務局の説明

(片山委員)

資料5ページの園児数の一覧をみると、本年10月からの幼児教育・保育の無償化の実施が、幼稚園の入園希望者の減少に大きく影響していると前回教えていただき、今回もこのことが大変気になっている。もちろん、少子化の影響も大きいですが、例えば、こども園の3歳児から年少への減少や今年度から令和2年度への減少など、特に神戸幼稚園については、はりま一宮こども園に移行後21名から3名となっており、今後どういう形になるかわからないが、数字でみると18名の減少ということになっている。子どもの集団の確保ということについて非常に困難な状況が予想されるが、資料17ページに、幼保一元化の目標であるこども園整備の考え方として、子どもの育ちに必要な集団の確保や、将来の教育保育のニーズを勘案して整備を見直すということがあるが、特にこども園の人数について協議していただいたらと考える。いい施設でありがたいと思うが、今後人数的な部分について不安を感じるところがあり、そういう部分についての見通しをお聞きたい。

(中尾次長兼こども未来課長)

資料5ページの神戸幼稚園の人数について、現在の年少4歳児は21名であり、来年度、年長に進級するにあたって、こども園への移行に伴う幼稚園部への申込みは3名となっているが、他の子どもは、保育園部の方への申込みとなり、一日保育を受けていただくということで、クラスとしては人数の変更はない。戸原こども園や一宮北こども園から見ると少し広い部屋を用意させていただいており、約30名のクラスが4・5歳児は編制できると考えている。保育の部分の人数については、一次募集の締め切りは11月末だったが、山崎では第二希望にまわっていただかないといけないということもあり、これから入所調整を行わなければならないため、本日資料として示すことができなかった。神戸幼稚園では、現在あずかり保育を実施しているので、21人と3人の差については今もあずかりを使って一日保育を受けておられる家庭であり、その部分は保育認定で保育所児として扱うことでご理解をいただきたいと思う。3歳～5歳の年齢ごとのクラス編制ということで、本日の資料では神戸幼稚園の56名が急に16名に下がるということになるが、保育園部の子どもがこれとは別にいるため、クラス編制としては大きく差はない。ただし、片山委員が懸念されているとおり、山崎の幼稚園については急激に人数が減るということで、こども園のようにひとつの場所で一体的に育ちを確保していくということが山崎においては必要であると考えている。幼稚園の園児数は減るが、その分保育所の方が子どもの数が非常に増えているということから、できるだけ早く、幼稚園と保育所を統合して、

こども園で一体的な保育・幼児教育が提供できるよう整備を進めていきたいと考えている。

(西岡教育長)

一宮南保育所の4歳児は、現在何人いるのか。

(中尾次長兼こども未来課長)

一宮南保育所は4歳児はいない。保育所で3歳まで過ごし、その後幼稚園に進むというのが続いている。

(前田委員)

資料9ページについて、山崎西中学校校区にこども園を3園整備し、山崎南中学校校区にも3園整備するということなのか。

(中尾次長兼こども未来課長)

本年の4月にこども園の計画を改正し公表している。その部分については、資料9ページの改正前の表で確認いただきたいと思うが、山崎西中学校校区に3園、山崎南中学校校区に3園という計画をもっている。ただし、これは今の子ども的人数に対しての計画であることから、幼保一元化を図っていく中で、現在はこの園数は必要と考えているが、今後少子化の流れをみながら令和7年までの間で必要なものについて整備をしていくということで今回整理をしている。

(前田委員)

3園ということになると、今のところというそれぞれ人数はどれくらいになるのか。

(中尾次長兼こども未来課長)

1園100人ということで考えており、100人定員のものを山崎町内に4園整備をしていきたいということで計画を公表させていただいている。その4園というのがA園、B園、C園、D園ということでご理解をいただきたいと思う。

(前田委員)

実際、それぞれ100人いるのか。

(中尾次長兼こども未来課長)

早くても、これから用地を購入してこども園を建設するということになると完成は3年先になる。100人というのは、その間の少子化も見込んだ上でということあり、現在は100人定員の4園では入りきらない子どもが在籍している状況である。

(前田教育部長)

山崎町内に0歳児から5歳児が約800人いる。保育園にというところもあるが、4園で100人ずつというのはまだ5～6年は大丈夫ではないかと考えている。

(中尾次長兼こども未来課長)

4月1日現在の山崎西中学校校区の対象人数でいうと、山崎幼稚園23人、かしわの保育所54人、菅野幼稚園10人、山崎若葉保育園69人、みのりこども園88人、誠心学園保育園89人、山崎聖旨保育園68人で合計401人となる。この部分をこども園2園、200人定員ぐらいでカバーしていきたいと考えている。

(金本委員)

山崎で私立になるこども園と公立になるこども園の数はそれぞれどうなる見込みか。

(中尾次長兼こども未来課長)

くりのみ保育園さんは、市の幼保一元化の枠には参加せずに独自にこども園に移行というの

をめざされている。そこを除いて市が中に入ってこども園を整備していくこととして、山崎町内で4園という計画をもっている。聖旨保育園さんとののはな保育園さんは、こども園への移行がないということで不参加を表明されていることから、山崎若葉保育園さん、段ちびっこ園さん、誠心学園保育園さんの3園には参加していただく計画としている。現段階で残る1園については公立ということを検討しなければいけないと考えている。

(片山委員)

資料4「勤務時間の実態調査結果」について、各学校の勤務時間を減らすために仕事の優先順位を考えたりして非常に苦労される中、勤務時間が1日あたり数分単位で増えたりということの説明いただいたが、全体的に残業時間を減らすということは各学校取り組んでいただいていると思う。しかしながら、調査期間が9月1日～9月30日ということで、体育祭・運動会のシーズンであり、どちらかという勉強を減らしてそちらの練習にまわすということで、年度末や学期末とかになると残業時間がさらに増えてくるのではないかなと思う。この時間をそのまま維持するとなると、家庭に持ち帰る仕事量が増えるのではないかと推測され、仕事量が減らずに勤務時間を減らすという非常に難しい取組になると思う。働き方改革ということで、勤務時間のことが問題になっているが、国や県レベルになると思うが、学級編制基準を見直して職員定数を増やしていくなど、市レベルでということはなかなか難しいことではあるが、これから全体的にそういう考えで1人の仕事量自体を減らしていくということを考えていかなければならないと思う。

(西岡教育長)

定数改善については国の権限となっており、教育長会でも県へ改善について要望を行っている。しかしながら、国は現在、スクール・ソーシャルワーカーやスクール・カウンセラーの配置で人員を増やしており、実際に子どもの指導にあたる部分に関しては増えていないというのが現状となっている。来年度もスクール・ソーシャルワーカーに多くの予算配当はされているが、定員配当というところには中々手をつけてもらえていないというのが非常につらいというところがあるということで、今後も定数改善について継続して要望を行っていきたいと考えている。

10 次回会議の招集について

令和2年1月23日（木）午前9時30分から、令和元年度第10回宍粟市教育委員会を開催するとした。

11 閉会

金本委員が閉会した。

以上 午後5時23分終了